

図書室だより

平成27年10月
川本南小学校

みなさん「読書の秋」を楽しんでいますか？ 図書室では、10月のイベント「ハロウィン」にちなんで、魔女の本を展示しています。小説から絵本までたくさんありますよ。展示してある本も借りられます。また、貸出中の本は予約もできますので、予約したい場合は、図書委員や先生に、声をかけてください。

2015 第69回 読書週間
10月27日(火)～11月9日(月)

今年のテーマは

「いつだって、読書日和」



です。

いろいろな本の中を旅してみよう。



9月にたくさん本を読んだ人

13冊	101	さいとう ゆづ さん
11冊	201	あらい しゅうか さん
10冊	101	なかやま あおい さん
9冊	101	まちだ ゆいな さん
	201	おがわ よしと さん
	201	ひしかり すみれ さん



今月、一番本を借りてくれたクラスは、2年1組(107冊)です。
おめでとうございます！



子供を本好きにするために



読書の秋です。ご家庭で読書は楽しんでいますか？

今回は、お父さん、お母さんが忙しく、なかなか意識的な取り組みができない、という時に、一緒に本を読むこと以外に、何ができるのかを考えたいと思います。

そもそも、なぜ本を読むことが必要なのでしょうか。

一つは、「世界を知るための手がかり」になることです。この時期になると、人権作文を書く際に子供たちが悩んでいるのを目にします。そのような場合、「人権が守られていない世界」を知ることによって、自分のいる世界との比較ができます。子供自身が直接触れることのない世界は、本が一つの入り口になります。「映画やテレビもあるじゃないか」という意見ももっともですが、子供が映像の力に圧倒されてしまうこともあります。「他人の身になって考える」機会を増やすためにも、ぜひ本も活用してください。

また、5月号の図書室だよりにも書いた通り、読書には言語能力を高める効果があり、本を好きになることは、成績向上につながります。

では、子供が本を好きになるために、大人は何をしたらいいのでしょうか。

低学年の子供や、読書の習慣がない子供の場合、「本には何か面白いことが書いてある」ということをまず、わかってもらうことが重要です。そのためには、その子の興味に合った本を読むことです。たとえば、年齢にそぐわないような幼稚な絵本でも、いわゆる「いい本」でなくてもいいのです。買って借りてもよいので、定期的に本を与えることを目標にしてください。

もし、図書館や本屋につれて行くのが面倒、という場合、そんな時こそ学校の図書室を活用してください。

毎月23日が家庭読書の日になっているので、その前後に、「学校の図書室に行きなさい」と、子供に声をかけてください。よろしくお願いします。

もし、お子さんが、「友達と遊ぶから、時間がない」という返事をした時は、「友達と一緒に行きな」と言ってください。友達同士で来た子たちは、面白かった本を順番に借りたりして、読書の幅を広げています。なので、友達と一緒に図書室へ行くのはおすすめです。

何を讀んだらいいのかわからない、という返事の場合は、「図書先生に話しかけな」と言ってあげてください。本を探す手伝いをしたいと思っています。

お子さんが本を好きになるためにも、声かけをお願いいたします。



毎月23日は家庭読書の日

テレビやゲームをお休みして
おうちのひとといっしょに
本をよみましょう